

出向く宮農レポート

アブラムシの防除について



中部宮農センター
伊藤 日菜

夏はスイートコーン、冬はプチヴェールに力を入れて栽培している日進の産直農家 土屋政子さん。

今年は昨年より64株増やして160株のプチヴェールを栽培中。他にもアレッタ、カリフローレなどを栽培しています。

今年も学校給食へたくさん出荷していただくために定期訪問に向かいました。

圃場は雑草もなくきれいに管理されていました。しかし、プチヴェールの細部を確認するとアブラムシの発生株を確認しました。アブラムシはどこからともなく発生し、秋はオスとメスが交尾して産卵し増殖を繰り返す時期です。冬になると卵の姿で越冬し、春に羽化した成虫が植物に飛来し、また繁殖していきます。



アブラムシは小さく一見大きな被害をもたらす害虫には思えませんが、植物の葉を吸汁し、ウイルス病の感染の媒体になります。また一度アブラムシが発生、蔓延してしまうと、最悪の場合出荷できないほどの被害をもたらします。

土屋さんは「アブラムシが発生したため、農薬を散布したが、防除しきれなかった」と困っていました。

そこで、今回はアブラムシに効果の高いといわれ、同時に管理しているアレッタとカリフローレにも登録のあるウララDFに展着剤のまくぴかを混用して散布するように指導しました。

植物や虫の表面には水を弾くワックス層があるため、散布液は簡単には付着しません。展着剤は主成分である界面活性剤が糊の役割を果たし、薬液の付着性や浸透性を高める効果があります。

プチヴェール、アレッタ、カリフローレは12月から1月頃に収穫を迎え、産直施設や学校給食、イトーヨーカドーへ出荷予定です。



まくぴか
(展着剤)



ウララDF

非結球あぶらな
科葉菜類に登録
のある薬剤

- 希釈倍率：10,000～3000倍
- 使用方法：添加

- 希釈倍率：4000倍
- 使用期間：収穫前日まで
- 使用回数：2回以内

※混用する際には展着剤を先に入れましょう。